

竹生嶋

竹生嶋

観世流謡曲 元和卯月本

40-001

40 竹生嶋

国立国会図書館



竹生嶋の宮に
まろくさくさ
のさまじはたはまつる
榎もは別竹生嶋の明神
宮に
今竹生嶋の宮に
乃宮の宮に

竹生嶋



おもひに井の氷の月くもぬ
清代に逢坂の御の宮格をす
たも山越ちりうる春負乃里少知
乃浦もも名よきわく
復ふほめ海よ名そしめ
見れし物舟の来り人増あり物
便船をこころもな
面白や

比と子生入るるを
うる海の花も
あさほりも
浦里よと久別て
うらつちの枝を
だんを



^{ニテ}此河の靈地もく歩くと澤々
 給めんもいかにうらやまの邊
 づに都の事もさうらふ
 花舟もまじりてかたわら
 摺入舟のこしらへてさしこむ
 けふの世も長閑とて舟はかた
 けりもいかにさうらふ

春のふりさけはあつた
 人のこころもさうらふ
 浦くを詠めぬか
 國とありてはさうらふ
 山もさうらふ花はさうらふ
 音のさうらふ時さうらふ
 都乃富士もさうらふ

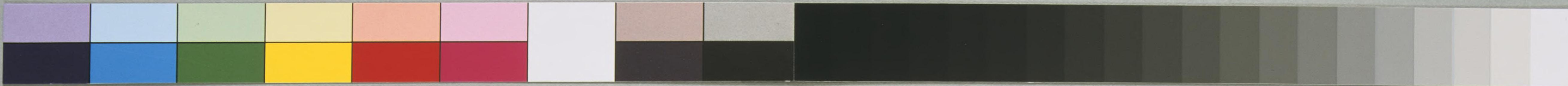


まゝの日子は良の根を風吹てを
沖漕舟のよもつさし様のもらぬ
のたもつれも雲井乃よりみ
人もむかし舟よあり夜うらを
隔て行程よ竹生嶋もてさるわ
^上緑樹陰志つぞく魚木すのほろ
きさあり月海にようくはる

空も浪をさるあり面白乃海の
きさあり船つづく人ほあり
と此射の湯道志る人プルも家
みくんきしう弁女天よそと
よく四行念へ口平常及たね
よおもむまらるそ有つよよ
がもたむかひありあつたを

あしとくはあはれ少人のあしとく
まゝにやそふり ^ミあはれまゝに
の早事よそふり赤も九生あま乃
ゆらたまきあはれあま乃
まゝにやそふり ^ミあはれまゝに
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃
具神徳もあはれあま乃と現

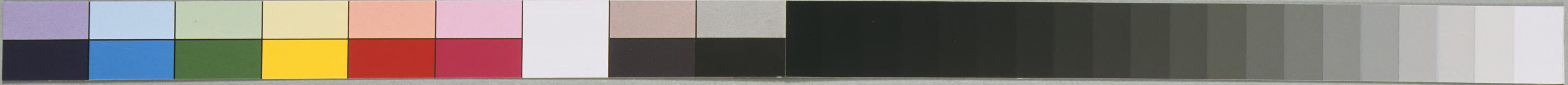
志たりまゝにやそふり ^ミあはれ
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃
悲願をたごして正覺年久し
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃
あま乃 ^ミあま乃 ^ミあま乃



有^下く^下は^下社^下壇^下乃^下は^下を^下押
 用^下ふ^下湯^下殿^下子^下は^下を^下か^下ら^下し^下ま^下れ^下
 翁^下も^下多^下年^下子^下は^下を^下か^下ら^下し^下ま^下れ^下
 乃^下ま^下り^下り^下種^下は^下此^下海^下乃^下あ^下る^下さ^下ら^下
 乃^下松^下て^下又^下飯^下子^下は^下を^下か^下ら^下し^下ま^下れ^下
 湯^下殿^下乃^下は^下乃^下端^下り^下る^下さ^下ら^下
 克^下も^下乃^下ま^下り^下乃^下端^下り^下る^下さ^下ら^下

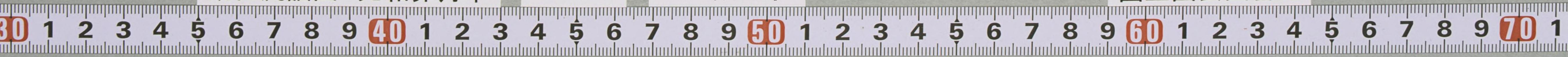
乃^下ま^下り^下り^下種^下は^下此^下海^下乃^下あ^下る^下さ^下ら^下
 乃^下松^下て^下又^下飯^下子^下は^下を^下か^下ら^下し^下ま^下れ^下
 湯^下殿^下乃^下は^下乃^下端^下り^下る^下さ^下ら^下
 克^下も^下乃^下ま^下り^下乃^下端^下り^下る^下さ^下ら^下
 乃^下ま^下り^下り^下種^下は^下此^下海^下乃^下あ^下る^下さ^下ら^下
 乃^下松^下て^下又^下飯^下子^下は^下を^下か^下ら^下し^下ま^下れ^下
 湯^下殿^下乃^下は^下乃^下端^下り^下る^下さ^下ら^下
 克^下も^下乃^下ま^下り^下乃^下端^下り^下る^下さ^下ら^下





こそくすむすむらゝる海つこ
 浪凡志きさうよめりて下界
 の龍カミ神あらしむる
 湖とよし現してりきりも
 かつやく令銀珠玉をほまはる
 ばくさきまる靴りまは
 きくしれカミ今よめりて下界

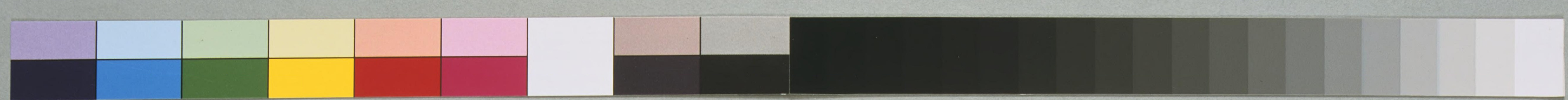
乃誓日さぬあはるる
 玉女乃らるるを現し有縁の
 生の諸影をうみりて下界
 龍神とあつて國をさるる
 あらし玉女の中よいらせ
 給へ龍神はすあらし湖水よ
 花行志を浪をきくしてをうへ



去て天地よりくる大地乃る
ち天地よりくる大地のより
訖言よりくる大地乃る

右百番之内有る歌亦直
傳石岡が左妻の音早句付
依波板起程い今清書
加奥あり早

元和六年 観世左近大夫
卯月日 菅原道



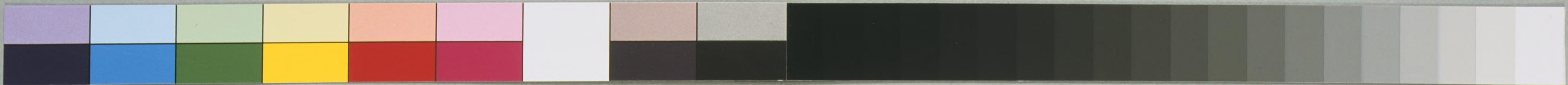
観世流謡曲 元和卯月本

40-011

40 竹生嶋

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

40-012

40 竹生嶋

国立国会図書館

